週刊 愛知民報

2022年
7月31日
第2596号

発行所 愛知民報社
〒460-0007　名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052) 251-2925　FAX(052) 261-6063
定価　月　400円　郵送料168円　1部　100円
毎週日曜日発行（第5日曜日は休刊）
1966年7月31日第三種郵便物認可

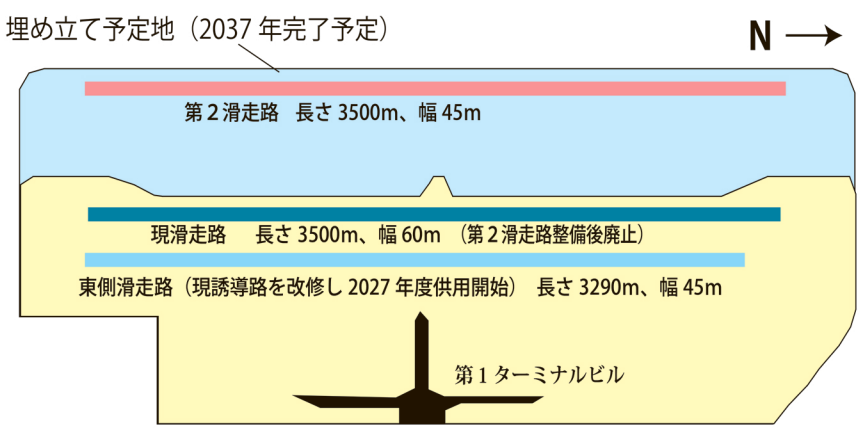
中部国際空港（セントレア）の現滑走路から離陸する旅客機（奥）。その先の海上では名古屋港のしゅんせつ土砂による埋め立て事業が始まっている＝17日、常滑市

来年知事選に向け県政ウォッチング

中部国際空港セントレア
第2滑走路は不要

東京と名古屋をリニア中央新幹線で結び人口7000万人の「リニア大交流圏」をつくることをめざす大村秀章愛知県知事は、中部国際空港セントレア（常滑市）の機能を強化するとして、現行1本で運用されている滑走路を2本に増設しようとしています。愛知、岐阜、三重3県と名古屋市、中部財界と中部国際空港会社でつくる「中部国際空港将来構想推進調整会議」は昨年12月、同空港の新滑走路建設の構想をまとめました。また県は、今年度の当初予算に空港会社への貸付金、国への働きかけや機運の醸成、路線誘致などの事業費1億4882万円を盛り込みました。知事は中部財界とともに国に対し、今月21日に第2滑走路整備を含む来年度予算要望をおこなっています。自民党・財界中心で大型開発優先の県政の転換をめざす革新県政の会（日本共産党も参加）は17日、「県政ウォッチング」を実施。同空港を視察しました。しもおく奈歩前県議も参加しました。

中部空港の将来構想



ムダにムダ重ねる

将来構想にある第2滑走路の内容は、第2段階。第1に工期5年間で約140億円かけて現在の誘導路（駐機場と滑走路をつなぐ通路）を大改修し3290㍍滑走路とし、2本体制で現在の1・2倍の発着能力とするもの。第2に、いま工事中の空港西側沖の名古屋港しゅんせつ土砂の埋立地がおよそ15年後（2037年）に完了するので、そこに新滑走路を新設し、発着能力を現在の1・5倍とし、現滑走路は廃止する計画。

西本真樹常滑市議は第2滑走路について、「埋立の場所は、大震災時の海域流出浮遊ごみの一時仮置場として認可されたもの。1年もたたないうちに知事の口から認可理由と違う新滑走路を打ち出すのは暴挙。ムダにムダを重ねるもの」と批判しました。

需要低迷でガラガラ

中部空港の運行状況は新型コロナの影響で低迷。2019年冬ダイヤをピークに国際線は6%、国内線は72%です。旅客数は国際線0・9%、国内線43・4%。

「ウォッチング」一行が空港ターミナルに到着した17日昼すぎ、国際線の出発案内を見ると、同日の出発便は「12時10分ソウル、13時50分マニラ、14時マニラ」で終わり、あとは翌日の便（ハノイ2便、バンコク、マニラ各1便）でした。LCC（格安航空会社）誘致を見込んで建設した空港南側の「第2ターミナル」は国内線のみ1日5本という惨状でした。

西本氏は、「空港の発着能力は年13万回で、最高は2019年度で年11万2000回です。1・5倍にすれば年19万5000回も発着できる」と指摘しました。

顔認識カメラで来港者属性把握

空港会社とトヨタ紡織は共同で、空港第1ターミナル内4カ所に「顔認識カメラ」を設置しました。来港者の通行時刻・位置・人数・年齢・性別などを記録し来港者属性を把握するというもの。設置場所は①4階正面エスカレーター上②3階国内線出発制限エリア③アクセスプラザ連絡通路（2台）④2階国内線到着制限エリア（「調査中」の掲示あり）。

くらし、福祉に税金まわせ

しもおく奈歩前県議　豊橋市区予定候補　レポート

7月17日、革新県政の会主催の「県政ウォッチング」に参加しました。武豊火力発電所、国際展示場（外観のみ）、中部国際空港を見学してきました。

武豊火力発電所は石炭を燃料にした発電所で、107万キロワット、CO_2排出量570万トンという全国の中でも最大規模の火力発電所です。

私は、県議会議員のときに2016年武豊火力発電所新設の計画が出ているときから、温室効果ガス削減とは逆行するものと指摘し白紙撤回を求めてきました。しかし、残念ながら新設されて来月から運転開始と発表されました。

県政ウォッチング＝17日、常滑市

武豊火力発電所のすぐ目の前には住宅地が広がっています。自然環境が壊され、漁業も奪われて暮らしが脅かされている状況を目の当たりにしました。

地元住民から「大気汚染が心配」「ゼロカーボンシティを掲げる、武豊町と矛盾しないのか」「地球温暖化が加速する」という声があがっています。

災害の大型化、年々酷暑が深刻化している夏の気温上昇…益々気候危機打開はまったなし。この矛盾を目の前に、気候危機打開へ運動を大きく広げていくことも大事だと思いました。国や県の姿勢が、自然環境を守るか壊すのかを左右します。

国際展示場（外観）、二本目の滑走路計画が進められている中部国際空港も見学。ここの2カ所も県議時代に問題を繰り返し指摘し反対してきました。

国際展示場は、約600億円もつぎ込んで愛知県が熱をいれて進めました。当初の予定より、稼働率が上がっていないのが実態です。

中部国際空港も、利用数が右肩下がりなのに滑走路をもう一つ増やす計画が進んでいます。新型コロナ感染拡大の中で、需要は落ち込んでいます。二本目滑走路もムダな大型開発であり、やめるべきです。

「大型開発ではなく、県民のくらしや福祉に県民の税金をまわせ」といえる、日本共産党の議席がどうしても県議会に必要です。

来年4月に向けて、議席の復活へがんばっていきます。